

西国巡礼慈悲の道

西国第四番 槇尾山

施福寺

妙相具

住職 津守佐理

「世尊妙相具」は観音経偈文の最初の一句であります。但、仏様のお姿が大変すばらしいことを、ことごとかく説かれているのが浄土門でよく読誦される「五念門」などです。

観音様も大変美しいお姿をされております。美しい女性のようなお姿をされております。しかし観音様は男女の性別はありません。大変美しいお姿だという事です。仏様は何も飾りを付

けておりません円満相ですが観音様はたくさんの瓔珞など装身具を付けて身を飾られております。又お姿そのものが多様性をもっており、六観音とか七観音といつて六とお七とおりのお姿を変化され大変華やかなお姿をされていて、仏様のもっている広大な慈悲と智慧を観音様は特に慈悲の方を主に受けもち、我々衆生に授けてくれるのですから「大慈大悲の観世音」そし

てまつられているお堂を大慈悲といえます。美しいお姿は慈悲の象徴です。六観音七観音とさまざまなお姿をされておりますが、正観音が一番基本の元のお姿ですが、かならず左手に蓮華の花、ハスの一茎を持つております。ハスの花は仏様の象徴ですが仏様のおはたらきを一番わかりやすく表現しているのがハスの花の美しさです。これが「妙法蓮華」ということで花を見れば仏様の教えがよくわかるという事です。花の美しさは、花が我々を供養してくれているという事で、観音様が仏の象徴であるハスの一茎を持つているという事は観音様が直接あらゆる方法でもって仏の「慈悲と

智恵」をとどけてくれる授けてくれる、これが観音様の偉大なおはたらきであります。観音様の美、持蓮華、その意味は慈悲と智恵の象徴です。

合掌



西国第四番

槇尾山

施福寺 せふくじ

天台宗

御本尊／十一面千手千眼観世音菩薩 開創／欽明帝(仏教公伝五三八年頃) 開基／行満上人

みやまじや ひばらまつばら わけゆけば

まきのをでらに こまぞいさめる

観音風光

◆花山法皇足守の馬頭さん
「観音八丁登れば生命いのちの泉わ
く」

約一キロの山道を馬頭さん
に助けられ登れば健康長寿ま
ちがいなし。花山法皇さまも
無事、巡礼をすまされました。
巡礼、登山、ハイキング、歩
こう会の足守の観音です。

◆方違大観音

当山は和泉、河内、紀伊の
境の三国山の近くにあり、旅
行安全、転勤転宅、結婚等、
恵方厄除の観音さまです。

主な年中行事

一月一日～三日	修正会
一月八日	碑伝木立
二月三日	節分会
五月一日～十五日	御本尊開帳法要
六月四日	山家会伝教大師
八月九日	千日観音
十一月二十四日	天台会天台大師
毎月十八日	観音供法要

〒594-1131 大阪府和泉市槇尾山町136

TEL・FAX 0725-92-2332

納経時間 12月～2月／午前8時～午後4時
3月～11月／午前8時～午後5時

仏教用語一口解説

天とは

「天部」とも言われます。『毘沙門天』『大黒天』『弁才天』『吉祥天』などや、その眷属、竜神、夜叉などもこの仲間に入ります。古代インドにおいて崇拜された神々が仏教(密教)に帰入され、仏法守護の役割を担う仏となりました。また、古代インドにおいての天部の神々は現世利益を与えると信じられていたところから、仏教においても人々に幸せを与える福德神としても祀られるようになりました。因みに如来や菩薩が性別を超越した存在であるのと異なり、天部の神には男女の性別が有ります。